

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みを、シリーズでご紹介します。

消防団員紹介

大谷分団 団員

今回は、大谷分団岩田耕司さんを紹介いたします。

岩田さんは、平成15年に大谷分団に入団。今年で団歴13年を迎えます。

昨年の消防操法大洲喜多地区大会では、小型ポンプ操法に3番員として出場し、見事優勝しました。



2列目中央が岩田さん

全国大会を目指し練習してきた県大会は、荒天のため中止となり悔し涙を流したそうです。「中止になって悔しい思いもしましたが、分団一丸となって取り組んできたからこそ悔いはないです」と熱く語ってもらいました。今回は指揮者での出場が期待されます。

岩田 耕司さん

仕事は酪農業で、現在70頭の乳牛を飼育されています。



牛乳をたくさん飲んでください

小柄で色白の岩田さんですが、運動神経は抜群で、先日民放の人気番組「SASUKE」の第31回大会予選会に出場し、見事予選を突破し本戦に出場されたそうです。「家族の応援がうれしかった。消防団活動も家族が応援してくれて助かります」と笑って答えてもらいました。酪農は休みのない多忙なお仕事ですが、これからも仕事と消防団活動にご活躍ください。

次回の団員紹介はあなたかも。ご協力よろしくお願ひします。

文化財



松の窟のコガノキ
大洲市指定天然記念物
個人所有

河辺町植松地区にある本樹は、中世の山城跡である「松の窟城跡」内にあり、植松地区の集落を見下ろせる場所に生育しています。根回り9m、幹周5.7m、樹高11.7mになり、推定樹齢は約400年を数えます。枝張りは、東西18.7m、南北20.2mになり、バランスよく形成された樹相が特徴のひとつです。

コガノキは、古い樹皮が部分的に薄く剥げ落ち、その跡がまだら模様を呈します。その様子が、鹿の子どもの模様似ていることから、コガノキ（小鹿の木）、もしくはカゴノキ（鹿子の木）などと呼ばれています。

本樹では、こうした木肌の特徴がよく現れているのも、見どころのひとつです。

(昭和61年3月10日指定)

野鳥



オオミズナギドリ(大水難鳥)
ミズナギドリ目ミズナギドリ科
全長 49cm 翼開長 122cm

オオミズナギドリは、ミズナギドリの仲間では最大級の鳥で、船で沖合に出ると水面すれすれに飛び、波間に見え隠れする姿を見ることがあります。ほとんど海上で生活するため、目にすることはまれですが、突如山中で見つかる事もあります。

数年前には、市内で落下しているところを保護されました。嵐の後によく見つかるようで、風に流されて高圧線にぶつかったのかもしれない。保護された個体は軽く、翼は長くて長距離移動に適しているようでした。その特徴が故に、直接地表からは飛び立つことは出来ません。

アメリカ全土では、一年間にバードストライク(鳥が人工構造物に衝突する事故)で10億羽もの野鳥が命を落としていると推計されていて、我が国でも多くの事例があります。空中を横切る電線など、自然界ではありえない人工物があふれる現代人の経済発展は、野鳥たちの目にはどう映っているのでしょうか。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

大洲藩主加藤家の文化財（番外幕）

これまで歴代大洲藩主について紹介してきました。今回は、藩主ではありませんが、加藤家を語る上で重要な人物を番外幕として紹介します。

加藤泰義（かとうやすよし）



加藤泰通（かとうやすみち）



加藤泰義は、2代藩主泰興の嫡男として寛永6年（1629）江戸に生まれました。承応元年（1652）、24歳で従五位下美作守に叙任すると、部屋住み（相続前の嫡男または次男以下で、分家や独立ができず父や兄のもとに留まること）のまま父と交代で参勤し、在邑（領地の大洲に居ること）の際には、下屋敷に居住し、父に代わって藩政を指揮しました。

泰義は、学問にも熱心で、各藩の藩主や政治状況を解説した『土芥寇讎記』の中では、「世二隠レナキ学将」と称せられるほど学問に秀でた人物として評せられています。

しかし、寛文8年（1668）、父から家督を相続することなく、40歳で没しました。遺骸は曹溪院に葬られますが、如法寺にも墓碑が建立されています。

加藤泰通は、明治12年（1879）大洲藩最後の藩主加藤泰秋の次男として生まれました。明治34年（1901）、イギリスに留学するとケンブリッジ大学に入学。帰国後は、宮内省式部官に任じられ、昭和6年（1931）の免官まで、数多くの宮内省の役職を歴任しました。昭和7年（1932）からは、貴族院議員として3期にわたって国政にも参画しました。

終戦後は、大洲へ居を移すと、多額の私財を提供し、産業の発展、教育・文化、スポーツの推進に尽力し、その功績から昭和38年（1963）、大洲市で最初の名誉市民の称号が贈られました。

三の丸のお殿様公園内にある国登録有形文化財「旧加藤家住宅主屋」は、この加藤泰通によって大正14年（1925）に建てられたものです。

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

毎年7月21日には、水天宮の花火大会が行われます。約1,500発の打ち上げ花火が上がり、たくさんの人にぎわいます。今年は50周年を迎え、さまざまな催しも開催されるようです。

一番の目玉でもある仕掛け花火のナイアガラの滝は、全長300mあります。肱川の水面に映る光景は幻想的で、夏の訪れを感じさせてくれます。

また、うかい船に乗りながら、花火を見る事ができるので、当日のうかいは、予約が取れないほど人気なのだそう。ぜひ、うかい船に乗りながら、水天宮の花火を鑑賞してみたいかがでしょうか。

【今月のクイズ】

水天宮の花火大会を運営している組織は、次のどれでしょうか。

- ① 柚木一步会
- ② 水天宮保存協会
- ③ 水天宮百歩会



【先月号のクイズの解答・解説】

大洲のうかいを支えている鵜の夫婦がいます。その名前は、それぞれ何でしょうか。

- ① 「たろう」と「じろう」
- ② 「たかし」と「えみ」
- ③ 「ゆう」と「あい」

解答…①

解説…今年6月の時点で、大洲うかいの鵜は20羽。その中でも興味を引くのが、鵜の夫婦なのに、どちらとも男性のような名前の「たろう」と「じろう」です。昔、芸達者な猿が全国的に注目されました。鵜の夫婦も、芸達者であれば、話題になるかもしれませんね。判別が難しいですが、全ての鵜に名前が付いているようなので、調べてみるのも面白そうです。



※今月のクイズの答えは、広報大洲8月号に掲載します。

国土交通省大洲河川国道事務所・山鳥坂ダム工事事務所だより

第1弾 平成23～27年度 鹿野川ダムトンネル洪水吐新設工事

工事現場で働いている、清水・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体の芳岡良一所長にインタビューしました。

工事の内容を教えてください

鹿野川ダム改造事業として、ダムの洪水調節容量を増加させるために「トンネル洪水吐」を新設しています。

ダムの脇にトンネルを掘るのは前例のない工事ですが、世界最大級の放流トンネルの建設はとてもしっかりがあります。

この現場のアピールポイントは

やはり、世界最大級の放流トンネルです。全長が457メートルあり、下流側90メートル間には水の圧力に負けないよう、「放流管」を設置して強度を上げます。貯水池を運用しながらの工事は、漏水や濁水に注意しなければならぬため、作業員一丸となって取り組んでいます。

この現場での一番のやりがいは

ダムの改造事業として、トンネル洪水吐という新しい方式に挑戦していることは、困難を極めると

同時に、とてもやりがいを感じています。

洪水対策なので流域のみなさんからの期待が大きく、少しでも早く洪水の不安を払拭したいという強い気持ちを持って臨んでいます。

最後にひとこと

工事に伴い、ご迷惑をお掛けしていますが、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いします。

(取材者：山鳥坂ダム工事事務所 調査設計課 大野)



インタビュー記事は、山鳥坂ダム工事事務所のホームページからご覧いただけます。
<http://www.sk.mlit.go.jp/yamatosa/>

手軽で簡単なレシピ集 Vol.6

〈さっぱり夏のかぼちゃサラダ〉



(材料2人分)

かぼちゃ	180g	マヨネーズ	大さじ2
きゅうり	40g	プレーンヨーグルト	小さじ1・1/2
玉ねぎ	30g	塩	少々
レーズン	10g	こしょう	少々
ハム	1枚(10g)		
レタス	20g		

作り方

- ① かぼちゃは、皮ごと一口大に切って固めにゆで、やわらかくなったらザルにあげる。水気がなくなったら皮を取り除き、熱いうちにつぶしておく。
- ② きゅうりは板ずりをして、半月切りにする。玉ねぎは、うす切りにし、水にさらす。レーズンは、お湯または水でふやかしておく。ハムは1cm程度の角切りにする。
- ③ ①の中に水気をしっかりきった②を入れ、マヨネーズとヨーグルトを加えてよく混ぜ合わせ、塩・こしょうで味を調える。
- ④ 器にざっくりと切ったレタスを敷き、その上に③を盛り付ける。

—かぼちゃの名前の由来—

かぼちゃが日本に伝えられたのは17世紀。ポルトガル人が、カンボジアの産物として伝えたことから、かぼちゃの名前がついたということです。

漢字の南瓜は、「南蛮渡来の瓜」の意味です。中国でも南瓜ナンパとよばれています。

【レシピ提供：大洲市保健センター】



6月1日(月)

お見事 熟練の技 ～うかい開き～

大洲の夏の風物詩であるうかいが、今年もスタートしました。日本三大うかいの一つに数えられ、その中でも鶺鴒船うぶねと屋形船が川を並走するうかいとしては、唯一とされています。

この日は天候に恵まれ、船に乗り込んだ観光客ら約260人は、目の前で鶺鴒がアユを捕らえるたびに大きな歓声をあげていました。



5月16日(土)

10年8カ月で40万人 ～大洲城来城者40万人達成～

平成16年9月の一般公開以来、大洲市のシンボルとして親しまれている大洲城への来城者が40万人を突破しました。

40万人目の来城者となった近田信美さんのぶよし(若宮)は、「松山からの友人と一緒に初めて大洲城に来て、40万人目になりびっくりした。このように祝ってもらい光栄に思う」と話されました。



6月6日(土)

気分爽快

～第1回鹿野川湖カヌー大会～

春の鹿野川湖周遊企画のひとつとして、第1回鹿野川湖カヌー大会が、2017年愛媛国体でカヌースプリント競技会場となる鹿野川湖で開催されました。

競技は、国体と同じ種目であるカヤックとカナディアン・カヌー、気軽に参加できる普及艇の各種目で行われました。日ごろの練習の成果を発揮する選手に対し、岸からは熱い声援が送られていました。



5月23日(土)

国の重要文化財になりました

～長浜大橋 国の重要文化財指定記念式典～

長浜大橋が昨年12月10日に国の重要文化財に指定されたことを受け、建設当時に尽力された西村兵太郎ひょうたろう元町長のお孫さんや携わった事業者、地元住民を招いて記念式典が開催されました。

長浜大橋が一望できる広場で行われた式典では、これまでの経緯説明や事業者への感謝状贈呈があり、粟津祇園太鼓の力強い演奏が花を添えました。

春の叙勲

旭日双光章



吉岡 猛さん
(若宮)
元大洲市議会議員

吉岡さんは、長年にわたり地方自治に尽力されたご功績により、このたび「旭日双光章」を受章されました。

瑞宝双光章



徳永 典史さん
(中村)
元四国地方建設局主任監査官

徳永さんは、長年にわたり建設行政に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

瑞宝単光章



宇都宮 庄次郎さん
(東宇山)
元大洲市消防団副団長

宇都宮さんは、長年にわたり消防業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝単光章」を受章されました。

第24回危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章



櫻田 武さん
(若宮)
元愛媛県警部

櫻田さんは、長年にわたり警察業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

瑞宝単光章



大野 和博さん
(新谷)
元法務事務官

大野さんは、長年にわたり矯正業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝単光章」を受章されました。

瑞宝単光章



中居 清さん
(肱川町宇和川)
元准陸尉

中居さんは、長年にわたり防衛業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝単光章」を受章されました。

名工に感謝状贈呈

5月13日(水)、市役所において久保運さん(新谷)に感謝状が贈られました。

久保さんは、「現代の名工」に選ばれていて、今回、銅板で制作した鯨鏝(高さ98センチ、幅54センチ、奥行き27センチ)、竹舟(高さ24センチ、幅60センチ、奥行き18センチ)、屋根飾り(高さ1・6メートル、幅56センチ、奥行き56センチ)の3点を市に寄贈されました。

贈呈式で久保さんは「若いころから仕事一筋でやってきた。地域に何か貢献したいと思っていて。展示していただきうれしく思う」と話されました。



大洲市民生児童委員協議会総会・研修会を開催

～広げよう 地域に根ざした 思いやり～

大洲市民生児童委員協議会（安藤光郎会長、163人）の平成27年度総会が5月11日（月）、総合福祉センターで開催されました。

開会にあたり安藤会長は、「安心して住み続けることのできる地域社会づくりのために、関連機関との連携を図り、お互いに助け合う気持ちを強めていきたい。また、市長表彰は、私たちの活動にとって大きな励みであり、行政や市民会のみなさんに深く感謝申し上げます。これからも、地域福祉の向上に努めたい」と、気持ちも新たに決意を述べられました。

続いて、通算6年以上在職で、社会福祉の向上に多大な貢献があった民生児童委員10人へ、市長から表彰状と記念品の贈呈が行われました。

その後行われた議事では、平成26年度事業・決算報告と平成27年度事業計画・予算案が、それぞれ原案どおり可決されました。

総会終了後には、八幡浜・大洲圏域障がい者就業・生活支援センターねつとWorkジョイのセンター長である高石徳香先生による「発達障がいのある人の社会参加について～就労支援の立場から～」と題した研修会が開催されました。

高石先生は「就労も社会参加の一つであり、支援の第一歩は相手のことをよく理解することから」と述べられ、現在の雇用状況や支援活動について講話がありました。参加したみなさんは講師の話に熱心に耳を傾けていました。

【市長表彰受賞者】（敬称略）

- ▽神岡 圭一（肱南地区）
- ▽笹山 允（肱南地区）
- ▽森 克己（喜多地区）
- ▽大野 昭洋（平地区）
- ▽村上 美知子（南久米地区）
- ▽富永 綾子（菅田地区）
- ▽出水 邦子（菅田地区）
- ▽須内 義美（八多喜地区）
- ▽明智 澄江（長浜地区）
- ▽黒田 信子（肱川地区）



肱南地区 神岡 圭一さん

洪水被害をくい止めるために ～肱川総合水防演習～

梅雨や台風シーズンを前に、若宮の肱川河川敷で5月31日（日）、肱川総合水防演習が行われました。

この演習では、国土交通省四国地方整備局や愛媛県、大洲市などの流域自治体、県警、消防、自衛隊など45団体から約600人が参加し、洪水に備えた水防工法や人命救助などの訓練を行いました。

超大型の台風に伴う豪雨で総雨量が400mmに達し、大雨により肱川の本支流が氾濫するとの想定で演習が開始されました。参加者たちは、時間経過に応じ、堤防の被災（漏水・亀裂・越水）を最小限に留めるための水防工法を実施しました。また、喜多小学校児童による避難訓練や中州に取り残された人の救助訓練、小型無人機による崩落調査訓練、通信ケーブル断線による通信障害復旧訓練、救援物資搬送訓練、大規模土砂崩れによる負傷者の救出救助・応急医療訓練なども実施しました。

閉会式で清水市長は「今まで何度か大規模な洪水を経験してきた。これから出水期になり、洪水が発生するようなことがあれば、今日の練習の成果を生かし、安全・安心を確保するために頑張ってもらいたい」とあいさつしました。

